

経済地理メモー社会主義国編一

⑩ ベトナム

資料情報係 Information service section

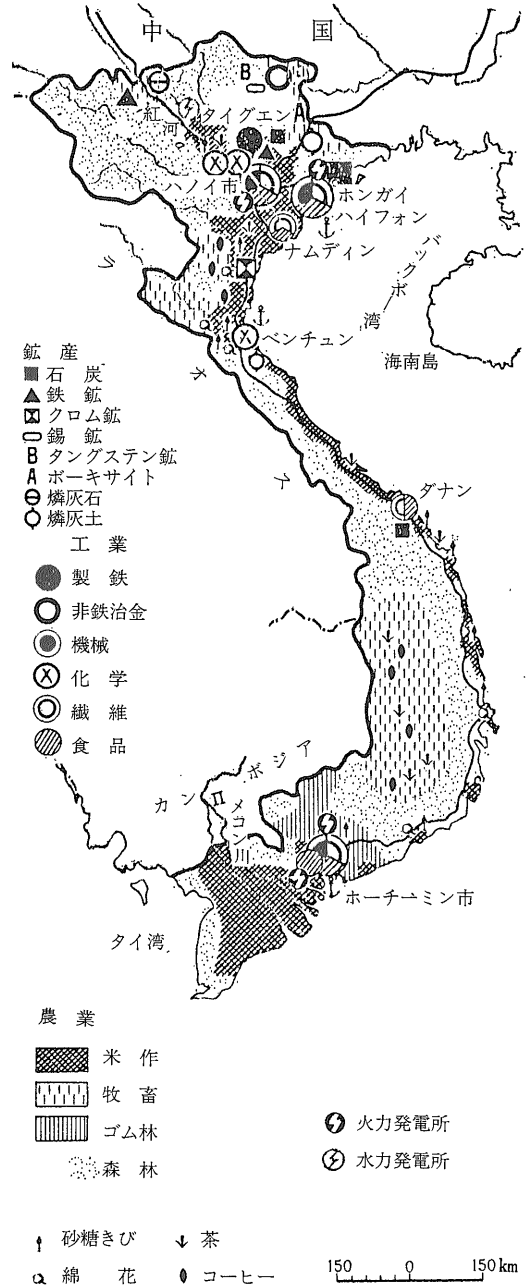
国名 ベトナム社会主義共和国 (Việt-Nam Xã Hội Chủ Nghĩa Cộng Hòa)
 面積 33万km²
 人口 5,108万人 (1981.1.1.現在)
 首都 ハノイ(Hà-nôi)

経済地理的位置 ベトナムの国土は インドシナ半島の東海岸と南海岸にそって北回帰線から南に1,600km以上 細長く伸びている。西と南西はラオスおよびカンボジア 北は中国と接している。友好諸国(主として社会主義諸国と一部の非同盟諸国)とは ラオス・カンボジアを除いて はるかに遠くへだたり 貿易は主に長い海路に頼らざるを得ない。ベトナムと緊張した関係にある中国が陸続きであるだけでなく 鉄道でハノイ ラオカイ タイグエン ホーチーミンなど主要都市 主要工業地帯と直接つながっている北部最大・最良の港湾ハイフォンを海南島・雷州半島などによって半ば包囲していることは ベトナムの経済活動上の一大不安要素とみることができる。

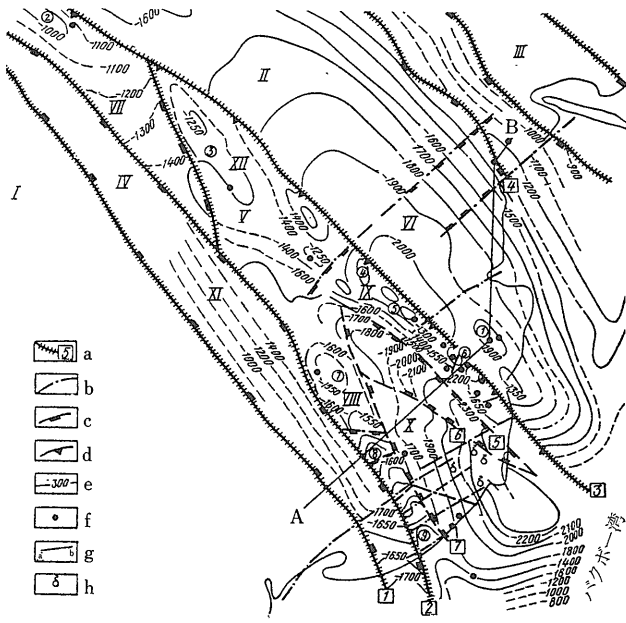
住民 ベトナムは64民族で構成された多民族国家である。人口のおよそ90%はベトナム族(キン族)で占められ 主として平野部に住む。残る10%ばかりの民族は主として山地と森林に住み 故ホーチーミン氏による独立運動の初期からその運動を支持し 運動に積極的に参加し 1979年春の中国の侵攻に立向った民兵と地方軍の主力も被侵攻地域に住むこの少数民族と そしてキン族であった。

総人口密度は150人/km²をこえるが 紅河とメコン河の三角州地帯と狭長な海岸平野帯に総人口の約80%が集中し その人口密集地帯の人口密度は700-1,000人/km²に達している。都市人口は全人口の25%前後である。

経済の一般的特徴 1954年7月のジュネーブ協定締結以降 南北に分断されたベトナムは北部が社会主義経済を指向し 南部が資本主義経済の体制に入った。1974年の統一後は両種の経済体制のくい違いを社会主義経済の方向に漸進的に手直ししながら ベトナム戦争による荒廃からの経済再建を進めている。



第1図 ベトナム経済地理図



第2図 ハノイ堆積盆地構造地質図
(V. D. Skorduli (ほか)1983)

- a—広域断層 b—局地断層 c—正断層 d—逆断層
 - e—第3地震波反射層の等深度線(m) f—試錐点
 - g—断面線 h—天然ガス徴
- 第2—第4オーダーの構造: I—VII
 第5オーダーの構造(○の中の数字): 説明省略
 断層(□の中の数字): 説明省略

その経済の再建だけでなく 新たな工業生産力と農業生産能力を得るために 1978年 ベトナムは経済相互援助会議に正式メンバーとして加盟した。中国との緊張やアメリカ・日本その他のベトナム援助協定の実行手びかえなどがベトナムのソビエトや東欧・キューバなどへの経済的・政治的結びつきを一層強いものにしていく。

ベトナムの主要経済部門は依然として農業で 北部では生産従事人口の75%が農業にしたがい 南部では85%に達している。しかし 北部では工業部門の伸びが大きく 現在では総生産高のほぼ50%を占めるようになった。一方 南部での工業生産は総生産高のおよそ10%を占めるにすぎない。

鉱工業 工業の主体は食品加工と軽工業で 精米・製粉・製糖・缶詰・製茶・製油・牛乳加工・煙草および繊維・皮革製造の工場が全国的に分布するが 大部分は紅河とメコン河の三角州地帯にある。同地帯には山地から筏で送られてきた木材の大型加工工場もある。

重工業は1960年のタイグエン製鉄所1号炉の完成によって初めてベトナムに出現したのであるが ベトナムには とくにその北部には大量の鉱物資源が埋蔵されてい

るので 将来は洋々たるものがある。上記の製鉄所をはじめ ハイフォンのセメント工場と造船所 ハノイ郊外の化学工場・農業機械工場・工作機械工場など ほとんどすべての重工業の建設は社会主義諸国の援助を基礎としたもので 一部は統一前に西側諸国が南ベトナムにつくったプラントをそのまま継承したものもある。

鉱業はホンガイ炭田群を主とする石炭の生産がもっとも重要で その生産は中国の援助のもとに行なわれていたが 1978年に中国の技術者と主要鉱山機械の一勢ひきあげによって生産は一時的には大きな打撃をうけた。しかし 経済相互援助会議の援助決定によって 主にソビエトが資金をポーランドが技術陣を提供してから1979年後半には生産水準が回復した。その石炭は日本など諸外国にも輸出されているが 多くは火力発電・製鉄や動力源に供されている。

金属・非金属資源の埋蔵量はとくに Fe・Mn・Pb・Zn・Sn・Ag・Cr・石灰石・燐灰石・硫黄・硫化鉄が多く そのうち鉄鉱 錫鉱 マンガン鉱 鉛・亜鉛 燐灰石 硫黄鉱が採掘され 錫と鉛・亜鉛が製錬され 銀の生産は比較的多い。とくにカオバンの錫鉱の製錬は有名であるが 他の採掘・製錬の規模は大きくない。

炭化水素の資源としては1975年に発見されたチェンハイCコンデンセートガス田(噴ガス量40-50m³/日・井)をはじめとして 南ドンクワン フークイ チェンシンチェンハイA・B キエンシオングA・B・Cの天然ガス層の 胚胎構造がハノイ古第三系上部統一中新統堆積盆地に分布する。さらにこの堆積盆地が南東に延長したバクボー湾(旧トンキン湾)水域でも同様な胚胎構造が多く発見されている。ハノイ堆積盆地での探査は主としてソビエトとベトナムの共同の事業として1959年から始められ その探査の範囲は南部ベトナムの陸域と水域に拡がっている。

我が国との関係 ベトナムは1977年9月に国連に加盟した。我が国とは1975年10月に臨時代理大使を交換した。我が国との貿易は国交を結ぶ以前から民間貿易の形で行われ 我が国は必要とする原料炭を主に輸入し 医薬品・農業機械・化学肥料などを輸出していた。1979年の貿易実績は往復1億6,596万ドル(我が国の総貿易額の0.08%) 我が国からの輸出が1億1,773万ドル(0.1%) 我が国への輸入が4,823万ドル(0.05%)である。

我が国が正常な貿易策にもどれば プラント輸出や資源開発などの進行と増大は目にみえている。